

事業報告書（令和6年度）

事業名 コノヒトカン1000缶プロジェクトの発展！

団体名 一般社団法人コノヒトカン

担当者名 東本 孝

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時：

- ・ エントリー受付：2024年2月1日～5月31日
- ・ 企画書提出：2024年6月15日
- ・ 再審査発表：2024年7月1日
- ・ コンテスト本大会：2024年10月5日
- ・ 受賞チームによる活動実施期間：2024年11月1日～2025年2月28日

場所：

山陽新聞社本社ビル「さん太ホール」（岡山県岡山市北区柳町2-1-1）

参加対象者：

全国の大学生・高校生

参加人数：

約111名（参加数：24チーム）※引率教員含む

内容：

「第3回コノヒトカン1000缶プロジェクト」を開催し、フードロスや貧困問題に関心を持つ高校生・大学生が企画を考え、プレゼンテーションを行うコンテストを実施しました。




2. ESD の視点 ① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 社会課題を解決するための行動を自ら考え、実行する経験を得ました。「誰かのために行動することができる」という変化が生まれ、実際にフードロス削減や防災に向けたイベントの企画・実施などに取り組むチームもありました。 ② どのように学び合いを取り入れたか 「第 3 回コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」でプレゼンテーション発表後「交流会」を実施し、参加者同士や審査員、観覧者との意見交換を行いました。また、活動を終えたチームを集めた報告会を 2025 年 3 月に予定し、成果の共有を行います。これにより、参加者同士の学び合いの場を提供します。 ③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか アイデアの発表で終わらず、実際に企画を実施するソーシャルアクション型のコンテストとして運営しました。受賞チームには「コノヒトカン」を託し、自ら考えた支援活動を実行する機会を提供しました。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。） 本プロジェクトは、参加した高校生・大学生がフードロスや貧困問題に関心を持ち、解決策を考える機会を得る事を目的として実施され、また、地域企業や団体と連携することで、食を通じた社会貢献の可能性を広げるとともに、高校生・大学生の自主的な学びを促進し、実践を伴う機会を提供しました。 取組の成果として、コンテストの参加者や観覧者、審査員を対象にアンケートを実施したところ、多くの参加者が「社会課題に対する意識が変わった」と回答しました。さらに、受賞チームが実践活動を行って、地域の社会課題の解決に向けて具体的な貢献を果たしました。 【意識調査まとめ】第 3 回コノヒトカン 1000 缶プロジェクト意識調査.pdf

より抜粋

【発表者回答】

- ・ 友人
 - ・ 自分で考えて行動するようになった
 - ・ コノヒトカンを通して災害や食料問題などに深く関わることができた
 - ・ 自分にはなかったアイデアをたくさん聞けたから
 - ・ このプロジェクトを通して色んなことを調べ、知ることが出来た。
 - ・ どのような観点から問題解決をしようとしているのか他校の発表を聞いて参考になった
 - ・ 自分たちでも考える機会が増えると共に、他の学校のアイデアなどを聞いていると、新たなアイデアが次々と出るため
 - ・ 高校生が考えるプロジェクトだからです！
 - ・ 普段考えない社会課題について考えるきっかけになったから。大勢の人の前での発表をする経験ができたから。
 - ・ 課題解決のためにどんな情報が必要か考え、その情報を得るために主体的にお話を聞きに行ったり、体験をしに行ったりすることが増えた。
 - ・ より自分に自信が持てました！
 - ・ みんなと意見出し合って 1 つの作品を作ることが出来たから。
 - ・ 自分で考え、行動することが出来た。
 - ・ 自ら考え行動してプレゼンを作ったこと。
 - ・ これまで身近にあったけど発見できていなかった食品ロスという課題にコノヒトカンをきっかけに気付くことができ、課題解決に向けた足掛かりとなりました。
 - ・ 発表するにあたって沢山話し合いをして、助け合いながら本番に望んだのでそう思いました。
 - ・ 色んな高校や大学の人が集まってそれぞれのコノヒトカンの活用方法や社会問題を提示していたから
 - ・ コンテストに向けて問題と真摯に向き合うことで、知っているようで知らなかったことを知ったり、今まで避けてきたプレゼンや発表を体験することで今後に活かせる良い経験を手に入れられたため。
 - ・ 発表準備をするにあたり、友達や先生となんども打ち合わせをし、より良いものを発表するため
- に、改善を繰り返し替えしました。少し意見が食い違うこともありましたが、お互いを尊重し会えたのも良かったと思います。
- ・ 各チーム様々な社会課題とコノヒトカンを結びつけた提案をしていて、新たな発見や学びが多くありました。
 - ・ 実際に去年参加したこと。関わることの難しい石川県と交流することができたこと。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

「コノヒトカン 1000 缶プロジェクト」を全国に広げ、岡山県を拠点に持続可能な社会づくりを推進していきます。来年度以降も、高校生・大学生が学びと実践を注目してもらえ
る機会を継続的に提供し、フードロス削減や地域活性化にまた、参加者がコンテスト後も
社会課題に挑戦し続けられるような体制を構築し、長期的な支援を行うとともに、本プロ
ジェクトのさらなる発展を決意するため、文部科学省のその後援する申請予定です。